



発行日  
平成27年10月1日 第103号  
林野庁 北海道森林管理局  
釧路湿原森林ふれあい推進センター

## 白糠カミングパラダイスに参加

9月12日、13日の両日、白糠駅近くの南通り商店街（ハミングロード）を歩行者天国にして、「第23回カミングパラダイス」が開催されました。

会場には、町民の皆さんによる露店やフリーマーケットがたくさん並んでいます。当センターは、2日目の13日（日）に、木の輪切り、まつぼっくり、どんぐり等で、木工工作を楽しんでもらおうと、テントをお借りして参加したのですが、この日は朝から雨。そのため人通りも少なく、会場を歩く人は傘をさしています。会場を雨に止みません。テントに誰も来ません。思い出したのは、「○○○殺すにや刃物はいらぬ雨の三日も降ればいい。」



カミングパラダイスでも、子ども達に人気の木工工作

ところ、雨が小降りになり、人の数が多くなると、当センターのテントにも、子ども達が集まり、急ににぎやかにな

りました。（良かった）  
この日、天候には恵まれませんでしたが、訪れた人に木工工作を楽しんでもらうことができました。

## 雷別ドラングリ倶楽部開催

9月16日（水）、第3回 雷別ドラングリ倶楽部の活動は、昨年の秋に雷別ドラングリ倶楽部で設置した防鹿柵周囲の笹刈りとキノコ観察の二本立て。

防鹿柵の周囲は、笹が繁茂しており、スカートネットと呼ばれる網が笹で持ち上げられたり、異常個所が発見できない等の恐れがあることから、笹刈りを実施しました。網を切らないよう慎重に鎌を振り、一汗かいたところ作業は終了。パイロットフオレストに向かいます。

ここからは、雷別ドラングリ倶楽部の会員であり、「北海道キノコの会」の事務局局長である奈良泰世氏に講師をお願いしてキノコ観察の始まりです。

冒頭に「キノコ」と言っていると、食べられる。食べられない。キノコっていろいろありますが、落葉や枯れ枝、倒木を分解する菌の掃除屋といふ見方で観察しましょう。」と話があり、観察場所を移動、カラマツ林やアカエゾマツと広葉樹の混交林といったハイロットフォレストでは、ごく普通の林です。

さて、どんなキノコがあるのでしょうか。講師は、林内のキノコを一つ一つ解説してくれました。参加者の関心の高かったものを紹介しましょう。

その紹介は、冬は虫の姿で、夏にはキノコになるという、朽ち果てた切られたキノコに講師は、冬は虫の姿で、夏にはキノコになるという、朽ち果てた切られたキノコに講師は、冬は虫の姿で、夏にはキノコになるという、朽ち果てた切られたキノコに

の下を掘ると、スズメバチが出てきました。こちらは「ハチタケ」専門家が一緒でないといけません。キノコです。次に、白くて、傘が開く前のコロシとしたキノコが発見されました。その名は、「ドクツルタケ」（名前にドクとついていますよ。）別名「殺しの天使」と呼ばれる猛毒キノコで、誤食すると死に至るそうです。怖いものを見た後は、球体で長い針を垂らす美しい姿の「ヤマブシタケ」を紹介してくれました。なお、気になる食べられるキノコですが、お馴染みのハナイグチ（ラクヨウ）、ナラタケ（ポリポリ）の姿を確認できました。



ドクツルタケ（猛毒）



サナギタケ



ヤマブシタケ



ハチタケ

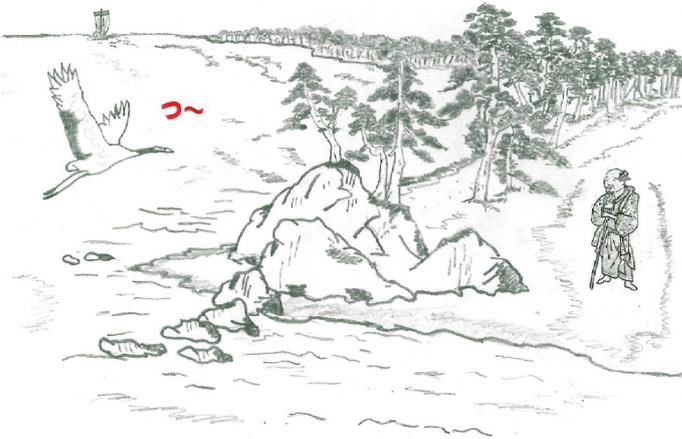
## 野生生物自動撮影調査

当センターでは、雷別地区自然再生事業地とパイロットフォレストで生息する生物（哺乳類等）をモニタリングし、自然環境の状態を把握することを目的に、自動撮影カメラを使用して野生生物生息調査を毎年7月と9月の2回行なっています。撮影した写真を確認したところ、いつもの写っているのは、エゾシカ、エゾタヌキ等なのですが、今回はタンチョウが写っていました。パイロットフォレスト周辺は、タンチョウの繁殖地、生息地の保護を図り、併せて学術研究に資するため、「別寒辺牛タンチョウ生息地保護林」に設定されています。タンチョウといえは、湿原の鳥（実際には、酪農家さんの近くでよく見かけますが）ですが、森林にも現れるんですね。飛鶴の森林の名のとおり、優雅に森林を舞っているかと思いきや、林道をダチヨウのように歩く姿でした。



林道を歩行中のタンチョウ

ところで、鶴の名前の由来をご存じでしょうか。鶴は昔、首長鳥といったそうです。大昔、ある白髪の老人が浜辺に立つてはるか沖のほうを眺めていると、一羽の雄の首長鳥が、「つ〜」と飛んで来て、巖頭の松にポイと止まりました。あとから雌の首長鳥が「る〜」と飛んできて、「つ〜」になったということなんです。これは、おなじみの落語「つる」で、ご隠居が八つつあんじに教えた鶴の由来。



ここで、鶴ではなく、「つ〜」と飛んできて、ポイと止まった「松」に注目する。林野庁の組織である釧路湿原森林ふれあいの推進センターの職員。この松がなんという松か推定してみよう。手掛かりとなるのは、浜辺の松ということ。耐潮性が強く海岸線で生育できるマツといえは、「フロマツ」ですね。

雄松とも呼ばれ、海岸の白砂青松の風景を作っています。本州、四国、九州に分布する木なので、釧路地方では、あまり馴染みのない樹種ですが、海からの潮風や吹き付ける砂を防ぐため、北海道でも道南等の海岸沿いに植林されている箇所があります。

ちなみに、落語「つる」の落は、「雌が黙って飛んできた。」のお後がよろしいようです。

※「保護林」とは、原始的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業及び管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として、区域を定め、自然環境の保全を第一とした管理経営を行うことにより、保護を図っている国有林野のこと。

### 参加団体募集中

当センターでは、「森林利用サポート事業」の参加団体を募集しています。詳しくは、北海道森林管理局ホームページをご覧ください。  
URL [http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)

### 今後の予定

- \* 10月7日（水） 第4回 雷別ドラングリ倶楽部
- \* 10月18日（日） 道民森づくりネットワークの集い
- \* 10月23日（水） 中茶安別小中学校 秋の学校林活動

\*管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。下記のホームページを随時更新しておりますので是非ご覧下さい。



国民の森林・国有林

## 林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11  
【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305  
【E-mail】h\_kusiro\_f@rinya.maff.go.jp  
【URL】[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)



当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。